

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 22958000102 | | |
| 法人名 | 有限会社サークルツー | | |
| 事業所名 | まるにグループホーム | | |
| 所在地 | 牧之原市勝俣1265-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年6月24日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年9月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JievsvoCd=22958000102-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和3年7月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「まるに」の介護の理念・方針に基づき、利用者様の支援に努めています。
 ・コロナウイルス感染予防対策しながら散歩等の外出をできる限り実施しています。またご家族様との面談はリモートで行っています。
 ・ホーム内の消毒、利用者と職員の毎日の健康チェック及び出入り業者関係の健康チェックも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「まるにグループホーム」と掲げたA3版の事業所通信は、利用者の日頃の様子が分かるほか季節毎に必要な情報も盛り沢山で、家族の役に成っていることが覗え、事業所の真摯な姿勢が伝わります。また法人では職員育成に力を注いでおり、オンライン講座を年間契約しています。いつでもどこでも職員が学べるよう配しており、利用者が自室にこもり気味になれば「お雑巾縫ってほしいんだけど」と本人が得意な事で誘いだすなど、職員のスキルも年々上がっています。管理者も8月にはキャラバンメイトとして地元銀行へ出向く予定で、地域の認知症講座にはなくてはならない存在となり、皆で一所懸命な様子に好感がもたれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を掲示している。必要に応じて説明している。 | 「私たちの介護の方針」を年度はじめに確認しあうことを恒例の取組みとし、利用者の変化について管理者が朝の打ち合わせで投げかけ、「笑顔があるか(理念)」を意識することも都度図っています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍においては、感染予防対策として、外部との関わりのある行事は実施していない。 | コロナ禍であっても散歩をできるだけ続け、地域の皆さんに顔を見せていることもあって、先日は「ひよこが生まれたよ～」と養鶏農家から声がかかり、併設保育所の子どもたちと楽しい時間を過ごしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 相談、問合せがあった時に話をする機会はある | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 職員に伝えている | 昨年から書面開催を重ねており、意見を紙でもらうようにしたところ、様々入ってきて「(皆の前では言えない、言わないことも入ってくるので)なかなかこの方法もいいのでは」と、貴重な内容に事業所では喜んでいきます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | その都度連絡をとるようにしている | 牧之原市には管理者が「健康体操」の指導者として協力しており、コロナが下火になった春先から受託を再開しています。高齢者のワクチン接種が完了する8月には3件あるほか、来年の予約も入っています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 実施 | 3ヶ月毎に3事業所からメンバーが集まり、身体拘束廃止委員会が開催されています。オンライン研修を通じて何度もビデオ学習ができるようになり、テストによって習熟度も検知され、本件制度における担保とともに職員の士気も高まっています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 実施 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 実施 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 実施 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 要望箱の設置 | 午前中のレクタイムには「何したい？」と尋ねてゲームや脳トレなどを選んでもらい、利用者主体で設定しています。家族には補充する消耗品について電話したり、LINEの一斉連絡で情報共有をまめにおこなっています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者会議、棟会議の実施。必要に応じて個別対応 | 「なんでも言ってください」と常に発信していて風通しの良さを意識するとともに管理者の片腕も育っています。また日勤から夜勤の交替も日誌化されていて、真摯に業務に向き合っている様子が見てとれます。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 施設経営者が実施 コロナ感染対策で市より物品等配布あり | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修は毎日実施 個別研修はリモートでの研修計画をたて実施している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | サービス事業所会や市内研修に参加 但し、現況自粛となっている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 介護者、家族から情報を聞くようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 連絡、相談には随時応じている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 実施している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 努力している | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | リモートでの面会実施し、本人と家族の関係づくりに留意している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ感染の為、現況ご家族との面談のみ | 親族の中で相談のうえ入れ換わりで通院支援に関わってくれたり、居室の様様替えを手伝ってくださる家族もいます。職員も縫い物が得意な人にはアプローチを気にかけて、「できること」への継続が叶っています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症状により、言葉のかけちがいが、とりちがいがあある為、過ごすメンバーや場所を工夫するようにしている。職員が仲立ちとなり、関係づくりに留意している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 有り。 退所されたあとのGHへの訪問や相談などがあった | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意向の聞き取りをする 状況観察、把握をしている | 不穏の症状にはセンター方式を使うこともありますが、常には会話やアセスメントから吸い上げた情報を連絡ノートで共有して、草取り等好きなことが生活の中でできるよう支援しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 努力している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 状況観察をしている 職員間の情報共有をしている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 努力している | 現場に直接入るほか会議からも介護支援専門員が情報精査しています。課題には利用者本人の興味や楽しみなど情緒面にもフォーカスしていて、身体介護に終始していない点に安心感が滲む介護計画書です。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 努力している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 努力している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|-------------------------|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設周辺への関わりをもつよう努力している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 努力している | 「できるだけ希望を叶えたい」として、次のようにやや複雑な状況にあります。従来のかかりつけ医1名、協力医3名、総合病院4名(内1名は通院)との構成で、8名の内5名が通院、3名が訪問診療です。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 努力している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 必要な状況においては相談、情報交換に努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族との話は実施している | ここ1年はありませんでした。家族の希望があれば取組むこととしており、経験のない職員にもイメージが湧くよう、話材としています。「往診はしない」としている医師もいるため、体調変化があったときに医師を交替することも視野にいれています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修実施 資料用意 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 自施設での訓練を実施しているのみ | 敷地内にある他事業所と合同訓練をおこない、発電機の起動練習も実施しています。職員一人ひとりの習熟度は管理者が把握できており、書面化は成されていないものの「次はこれをしなくては」という事は明確です。 | 夜間対応については未だ対応方法に検討の余地があるようですので、早めに訓練に取り入れることを期待します。また、習熟度合いは書面化されるとよいと思います。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--------------------------|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 実施 | 「その人らしく生きること＝尊厳を守る」は事業所の理念に通じることでもあるため、何かあればその日のうちに職員に声をかけて話をするようにして、不適切ケアを未然に防いでいます。 | 職員の不十分な点は頭の中にあるも、書面化されていないため、チェック表などの補完ツールが備わることを期待します。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 実施(危険のリスクのない範囲内で) | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 危険のリスクがないことを前提に実施 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個々の希望の中で、できる限りの意向にはそっている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 臨機応変に対応 | 朝、夕は業者搬入で湯せんの食事とし、昼食は施設全体の厨房から献立が提供されています。匂いやシズル感は薄いので、週1回程度はお好み焼きなどで調理レクをおこない、楽しさを増やしています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 実施 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 実施 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 実施 | 便コントロールには並々ならぬ尽力があり、認知症の患いと大脳への伝達といった排泄メカニズム等学習にも余念がありません。学びを生かした手引き歩行の積み重ねで便がでるようになった実績もあります。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々に記録・観察 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的に入浴時間は決めている(変動あり) | 1日おきの入浴は、レクや往診、買い物など、その日のスケジュールで適宜変更はありますが、週3日を目安に清潔を担保しています。夏は午後の散歩は厳しく入浴は午前として、「ゆったり」に努めています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 実施 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 実施 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | できる範囲内で実施 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染予防対策をとっている ①散歩の実施 ②ドライブの実施(現地で降りて過ごす時間は臨機応変に行っている) | 暑さを避け8時から8時30分と16時以降を散歩タイムとし、また平行して花の水やりが励行され、利用者のやりがいに実っています。外食ができにくくなり、お弁当やお寿司をテイクアウトしたり、ぐるぐる廻る降りないドライブで気分転換につなげています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理は施設 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 実施 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 努力している | 「季節感をだしたい」として壁面づくりに力を入れていて、デイサービスも顔負けの力作が毎月誕生しています。コロナ対策は、コンタクトポイントを中心とした消毒をこまめに重ね、換気を1時間おきに実施しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 努力している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の意向により、自宅より欲しい物は持ってきている | コロナで会えない兄妹が写真を送ってきた人は棚に飾っています。大変活動的で夜間のうちに模様替えをしてしまう利用者が1名いますが、他は入居のときのままで馴染みの環境を保っています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 実施 | | |